

この「臨床心理学」を脱ぐ!

そのマスクを外したら、どうなる?
世界は?自分は?関係は?

日本臨床心理学会 第58回大会

2022年11月4日(金)▶6日(日)13日(日)

会場 ウィリング横浜(オンライン併用)

日本臨床心理学会 第58回大会

この「臨床心理学」を脱ぐ!

—— そのマスクを外したら、どうなるか。

世界は?自分は 関係は?

「臨床」という言葉を私たちは大切にしています。「臨床の知」という言葉が今も日本では相当な力をもっている訳や意味を考えることは別にすると、**「臨床心理学会」**の名を冠りとして被っている学会としては、「臨床」を大事にせざるを得ません。しかし、それは**「臨床心理」という言葉にしがみつ**くことではありません。むしろ、現在使われている**「臨床心理学」**が当然視していることを徹底的に見直してみようということです。既成のイメージで自らを縛りつけて不自由になっていないか、ということです。

「脱ぐ!」 まずは、人に見せつけたり身を守ったりの衣装を脱ぎ捨てて、裸になり素(す)になって、自らを見つめ直すということです。脱いだら何が現れるか、と。しかし、言葉を使う限り裸になれるでしょうか? そもそも何が素(す)と言えるのでしょうか?

裸にして診断するという発想から離れて、着ているものが何かを知るという作業を始めることの方がベターかもしれません。また、全く別の衣装をまとう、あるいは、衣装や飾りの一部を剥がして全体を変えてしまったらどうなるか? こうした軽々とした冒険と試みをすることもできます。それは、この衣装、この専門用語、あるいはこのブランドに見事に組み込まれていて、当然視されるために却って見えなくなっている仕組みや仕掛けを、あらわにしようということでもあります。

いずれにせよ、そうした観察と模索や試行のためには、この**「臨床心理学」**から一度外に出てしまうことが絶対に必要です。そういう意味を込めて**「脱ごう!」**と言うわけです。



* 大会のテーマ、前回のを引き継ぐことの合意は簡単でしたが、このキャッチフレーズに関しては、大会準備のスタッフの中でいろいろな議論がありました。もう少し別な表現がいいとか、ちょっと乗れないところがあったり、これを加えて欲しかったりと。

「キャッチフレーズの出来上がるまでの過程」を書いて、少しでも舞台裏をお見せしたいものです。全体として、この大会には実に多様な豊かな考えがあります。どんな人にも、「どうぞ来てみてください!」と、言えるような集まりにしたいと思っています。